



すべては次代を担う
子どもたちのために

芦北町総合計画(第二次)
2015 - 2024

芦北町後期基本計画
2020 - 2024



芦 北 町



芦北町長
竹崎 一成

— はじめに —

新「芦北町」が誕生して令和2年1月1日で15年を迎えました。これまで芦北町議会をはじめ、町民の皆様 の深いご理解とご協力のもと「すべては、次代を担う子どもたちのために」を基本理念とする「芦北町総合計画（第二次）前期基本計画」により、積極的なまちづくりを展開して参りました。

この間、全国的な人口減少や少子高齢化の急速な進行など、本町を取り巻く社会情勢が大きく変化する中で、子育て支援をはじめとする福祉施策や企業誘致等の産業施策、利便性や安全性向上のためのインフラ整備等、「前期基本計画」に基づく様々な事業において着実な成果を上げてきました。

近年では、地方分権の動きがより加速し、地方の権限と責任がますます拡大しております。厳しい環境の中で芦北町が個性を発揮し、豊かさ誇りを後世に残していくためには、町独自の施策や取組が必要不可欠です。

このような中、本町では、「個性輝き活力と魅力にあふれた、安全・安心を実感できる町」の実現に向けて、令和6年度までのまちづくりの方向性や将来像を示した「芦北町総合計画（第二次）後期基本計画」を策定しました。

今後はこの計画をもとに、「すべては、次代を担う子どもたちのために」という揺るぎない理念のもと、「教育・文化」、「産業」、「福祉」、「環境」などをはじめとする様々な分野において、時代に沿った新しい施策に取り組んで参ります。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見・ご提言をいただきました関係各位に心から感謝を申し上げますとともに、その推進にあたりましても、皆様の積極的なご参加、並びにご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年3月

芦北町総合計画（第二次） 芦北町後期基本計画

第1章

総合計画策定にあたって	6
-------------	---

第2章

基本構想

1 まちづくりの基本理念	14
2 まちづくりの目標と将来像	14
3 施策の大綱	15

第3章

後期基本計画

第1節 地域活力と雇用を生み出す

産業づくり	22
1 持続力のある農林漁業の振興	22
(1) 農業の振興	22
(2) 林業の振興	24
(3) 漁業の振興	26
2 賑わいと活力に満ちた商工業の振興	28
(1) 商工業の振興	28
(2) 企業誘致の推進	30
3 地域が連携した魅力あふれる観光の振興	32
(1) 観光の振興	32

第2節 地域で守り育てるまちづくり

1 生涯健やかで心豊かな暮らしづくり	34
(1) 健康づくり活動の充実	34
(2) 健診体制の充実	36
(3) 医療環境の充実	37
(4) 高齢者福祉の充実	38
2 思いやりと生きがいのあるまちづくり	40
(1) 障がい者福祉の充実	40
(2) 地域福祉活動の推進	42
3 地域で支える子育て環境づくり	44
(1) 子育て環境の整備	44



第3節 郷土の未来を育む人づくり	46
1 「知・徳・体」のバランスのとれた教育の推進	46
(1) 学校教育の充実	46
2 郷土愛に満ちた心身ともに豊かな人づくり	48
(1) 競技スポーツ・生涯スポーツの推進	48
(2) 生涯学習の推進	50
3 文化・芸術・国際交流の推進	52
(1) 文化・芸術の振興	52
(2) 文化財の保存と活用	54
(3) 国際交流の推進	56

第4節 暮らしを支える基盤づくり	58
1 環境と防災に配慮した社会基盤づくり	58
(1) 適正な土地利用にもとづく社会基盤の 維持整備	58
(2) 交通基盤の整備	59
(3) 公共交通機関の維持・確保	61
(4) 安全・安心なまちづくり	63
2 快適で住みよい暮らしづくり	65
(1) 上水道の整備	65
(2) 下水道の整備	66
(3) ごみの減量化の推進	67
(4) 環境保全活動の推進	68
(5) 住宅等の整備・管理	70

第5節 住民と行政の協働のまちづくり	72
1 みんなで支え合う地域づくりの推進	72
(1) 地域づくりの推進	72
2 健全で効率的な行・財政の運営	74
(1) 行・財政運営	74

資料編

アンケート概要・結果	78
委員名簿	85



総合計画 策定に あたって

1. 計画策定の趣旨

本町の芦北町総合計画（第一次）は、平成 17 年 10 月に策定され、「個性の光る活力あるまちづくり」を基本理念に掲げ、「すべては 21 世紀を担う子どもたちのために」をまちづくりの目標として、平成 26 年度を目標年度と定めて進めてきました。

今回、芦北町総合計画（第一次）の計画期間が平成 26 年度で終了することから、これまでの取組を踏まえ、新たに本町の将来像とそれを達成するために必要な施策の大綱を示し、長期的展望を持った計画的、効果的な行政運営を行うため、その指針となる芦北町総合計画（第二次）を策定しました。

本町を取り巻く社会経済情勢は、少子高齢化の進行はもとより、地方財政は今後より一層厳しさを増していくものと予想されます。多様化する町民ニーズに的確に対応し、積極的な情報提供のもとでまちづくり施策の展開を図り、より効果的な事業を進めていくことが必要となっています。

芦北町総合計画（第二次）は、このような背景を踏まえて、町勢のさらなる発展と町民福祉の一層の向上を図るため作成するものです。

2. 計画の役割

総合計画は、町民と行政が協働で計画を策定し、共通の方向性・目標に向かって行動し、町民と一体となったまちづくりを進めるための、最も基本となるまちづくりの指針です。このため、本町の目標とする将来像を明らかにし、その実現のための施策の柱を設定するとともに、施策展開の全般にわたっての基本的な方向付けを行うものです。

3. 計画の構成と期間

この計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3部で構成されます。

(1) 基本構想

本町の将来像とそれを達成するために必要な施策の大綱を示すものとし、令和6年度を目標年度とします。

(2) 基本計画

基本構想を具現化するための施策の体系を示します。基本計画については、前期・後期に区分し、前期基本計画の目標年度は令和元年度、後期基本計画を令和6年度の5年間とします。

(3) 実施計画

基本計画で定められた基本目標を実現するため、町の財政状況や国、県の施策、さらに社会情勢や町民ニーズを踏まえ、当初3年間の計画を策定します。実施計画については、毎年度見直しを行い、当該年度から3ヶ年の計画策定を繰り返します。



4. 計画の背景

(1) 自然と地理的条件

芦北町は熊本県の南部に位置し、北側の八代市、南側の水俣市・津奈木町との境を山々に隔てられ、東側は球磨川を境とし、西側は不知火海に面しています。

東西 16.6 キロメートル、南北 25.4 キロメートル、総面積 233.98 平方キロメートルを有する本町は、東西南北を山、川、海によって区切られた一つの領域になっています。この領域には標高 200 メートルから 900 メートル前後の山々が連続しており、平地が少なく、町土の約 8 割が山林となっています。平地は、海岸及び河川の流域に分布するのみで、それ以外のほとんどが丘陵山岳地帯で、町の西岸は芦北海岸県立自然公園に指定されています。気候は海岸地域と山間地域では幾分条件が異なりますが、海岸地帯は暖流の影響により暖かく、ほとんど無霜地帯であるのに対し、山間地域は降雨量、湿度共に多く、比較的冷涼です。

地域の西部を肥薩おれんじ鉄道、東部の球磨川沿いにＪＲ肥薩線が走り、一級国道 3 号が肥薩おれんじ鉄道と並行しています。また、南九州西回り自動車道の整備が進む中、本町では田浦インターチェンジと芦北インターチェンジが完成し供用されています。

町中心部から熊本市へは北へ 74 キロメートル、八代市へは 32 キロメートル、県境の水俣市へは南へ 22 キロメートル、人吉市へは東へ 40 キロメートル、近隣都市へは車で 1 時間前後の距離です。



芦北海岸県立自然公園

(2) 歴史的背景

万葉の時代から「葦分（あしきた）の国」として知られ、古くから九州南部への海・陸両路の重要な拠点であったことがうかがえます。さらに大陸文化との交流形跡も見られるほか、近世には肥薩国境の要衝の地となり、城下町として、あるいは宿場、商い場、湯治場として栄え、県南の政治・経済・文化の中心として発展しました。

昭和 30 年 1 月に佐敷町、大野村、吉尾村の 3 か町村が合併して葦北町となり、昭和 45 年 11 月に葦北町と湯浦町が合併して芦北町となりました。その後、平成の大合併により、平成 17 年 1 月 1 日に田浦町と芦北町が合併して新「芦北町」が誕生し、現在に至っています。

